

日時：2021年1月27日水曜、13:30-15:00(～15:30)

場所：音杉コミュニティセンター

参加者：goe、takg,takd、to(若)、hay、bun、yamz 計7人

テーマ：hay:「堀江、宮道氏、勸修寺藤原氏について」

bun：県東部の山街道について → 簡単に触れる、後日にまわす
アフタートーク；上市インター、令和二年大雪、をテーマに歓談

●堀江の庄について by hay

(1)滑川博物館では年末に「堀江の庄」の企画展があり。上市とは縁が深い堀江の庄に上市からもっと関与があれば。と前回には懇談をしていた。このことがあって、今回は堀江庄の深堀として hay 氏がレポーターを務められた。

hay さんの解説と談義は次の三項目；

- ・堀江庄ができる以前の藤原氏の時代から展望
- ・なぜ堀江の庄が今の地にあったのか。(海岸でなく奥地でもなく)
- ・関連して山の生活の話。

(2)「堀江、宮道氏、勸修寺藤原氏について」

藤原氏から堀江庄までの時代の流れ

- ・860年代、藤原高藤(勸修寺藤原氏の祖、鎌足から6代目)
→山城国宇治(宇治平等院か山科か)
の軍司「宮道弥益」の娘との間に胤子誕生
→宇多天皇に嫁ぐ→886年、醍醐天皇誕生
- ・969年、藤原氏、摂関常置
→1016年、藤原道長、摂政
- ・真興上人、黒川に真興寺建立(真言宗)
- ・1126年、葉室(藤原)賢隆の孫が越中国司
→1129年宮道氏、堀江保開発着手
→1142年宮道季式が
藤原氏の興福寺松室法橋(奈良)や
京都祇園社に堀江村9ヶ村を寄進

(3)堀江庄の地形的特徴

- ・滑川域では堀江庄が唯一の港であった。現在の滑川街域は「ぬめりかわ」といわれて湿地帯であつたために、堀江庄が交通の要所となつていた。
- ・黒川地域やその下流の堀江庄は上市川と早月川の間に位置し、水害にあいにくい地域。肥沃な土地ではないものの洪水にあわず安定な土地。こういう地域は県内でも珍しい。東域では常願寺川、県東部の東側では片貝川や黒部川といった暴れ川がある。早月川もそうであるが。

(4)山(山腹)の生活、gos 氏を中心に談義

- ・水利に便利：谷筋では水が確保できる。平地な

ら、ポンプでくみ上げるが、山間なら、谷から水を引いてくるだけ。

・棚田では水路がいない。上の段から下の段に向かって水が落ちしていくので。

・山の幸は1か月で再生産・豆、小豆、えごま、など。オオバコをはじめ葉草もある。

山では、山の幸があり、食うに困らない。今でも、味噌さえ持っていれば、山で飲食できる。

・松茸でも40-50年前までは、山に入ったとたんに松茸の香りがしていた。また山のふもとで稲刈りしていたら、山のほうから松茸の香りが漂ってきたものです。今は当時に比べ、松茸の量は1/20に減った。

・よもぎ沢は薬剤「よもぎ」が大量に生育。現在も「よもぎ」のみならず種々の薬剤の山の幸がたくさんある。

●アフタートーク

(1)上市インター

・利用者は上市もあるが、富山市北部(岩瀬や水橋など)からの利用者が多い。富山インターに出るよりも上市インターが近いので。

・北陸HYの構想段階で上市インターの設置があつたが、用地確保に問題があり、流れたという。今回はようやく実現となつた。

(2)令和二年大雪

・富山では36年ぶりの大雪。道路除雪状況について話し込みました。

●次回；2021年2月24日水曜、

13:30～15:00 (アフタートークは15:30まで)

話題提供者

(1)takeg さん 1時間ほど

テーマ；引きこもり

皆さんと一緒に考えていきたい。

硬いテーマですが、

柔らかく話し合ひましょう、とのこと。

(2)hay さん 堀江庄その2

(3)近況話題；皆さんで話題を出し合い

楽しみたいと存じます。